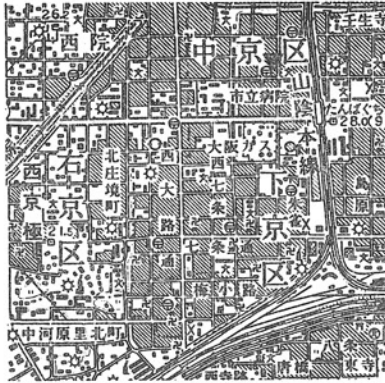


# 京都・平安京右京五条一坊六町

- 1 所在地 京都市中京区壬生松原町
- 2 調査期間 一九八六年(昭61)三月
- 3 発掘機関 勸京都市埋蔵文化財研究所
- 4 調査担当者 家崎孝治
- 5 遺跡の種類 都城跡
- 6 遺跡の年代 平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(京都西南部)

本調査は住宅兼工場の建築に伴う立会調査である。調査の結果、南東方向にゆるやかな傾斜をもつ池沼状の土層を確認した。断片的な土層観察による調査のため、遺構の切合い関係等については不明な点が多いが、現地表下〇・九mから下層は褐灰色泥土層を主体としており、木片が混入しているのが観察できた。深さは〇・七mを測り、底部には直径五cm程度の礫が敷きつ

められていた。

調査地は五条一坊三町(前頁参照)と隣接する条坊町割であるが、周辺の既調査分を検討すると、三町の湿地状堆積とは別の遺構であると思われる。木簡はこの池状の落ち込みから出土しており、土師器・須恵器・緑釉陶器・木製品(分銅型木製品・斎串・折敷底板)と共に出土する。共伴遺物よりみて、九世紀代のものと思われる。

## 8 木簡の積文・内容

(1)

「」

(9.2)×12×2 069

木簡の下端部は三角形に切つてとがらせている。片面に数字であるのが認められるが、文字の判読は困難である。

## 9 関係文献

京都市文化観光局・勸京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報』(一九八六年)

(久世康博)